

平成28年度 第3回 久留米市総合教育会議

平成29年2月22日
久留米市庁舎303会議室

次 第

1 開会

2 市長挨拶

3 議題

議題1 久留米市の児童生徒の学力の保障と向上について

議題2 久留米市教育に関する大綱及び第3期久留米市教育改革プランの進捗状況について

4 その他

5 閉会

平成28年度 第3回 久留米市総合教育会議

議題1

久留米市の児童生徒の学力の保障と向上について

平成29年2月22日

1 これまでの会議について

第1回会議（平成28年7月25日）

市の児童生徒の学力の実態を多角的な視点で明らかにし、学力の保障と向上に向けた市教育委員会と学校の取組を紹介した。そして、主に次のような意見が表明された。

- 1 全国学力・学習状況調査の結果が全国トップクラスの秋田県、福井県の状況を調査する必要がある。
- 2 学力が低位層の児童生徒の状況を明らかにして力を入れる必要がある。
- 3 宿題の出し方など、学力向上に向けた教師の意識と取り組みを高める必要がある。

第2回会議（平成28年11月21日）

「福井県・秋田県の調査結果」「平成28年度全国学力・学習状況調査の久留米市の結果」を報告し、市教育委員会で分析した課題と今後の取り組みの方向性について、主に次のとおり提示した。

- 1 福井県・秋田県は、施策に関して久留米市と大きな違いはないが、「教育委員会の指導主事の配置較差による学校との関わり」「学力調査の結果分析や宿題のフォローなど学校の取組の計画性と徹底度」に差がある。
- 2 わかる授業づくりや日常の学習体制づくりに関して、学校や教職員間に課題がある。学校が学力調査の分析に基づく検証改善サイクルを作成し、教職員で共有することが必要
- 3 「家庭学習の時間が全国と比べて少ない」「学力低位層の割合が全国と比べて多い」ことから、各学校の学力実態と教育環境に応じ、地域学校協議会と連携した補充学習の新たなシステムづくりが必要

2 第3回会議について

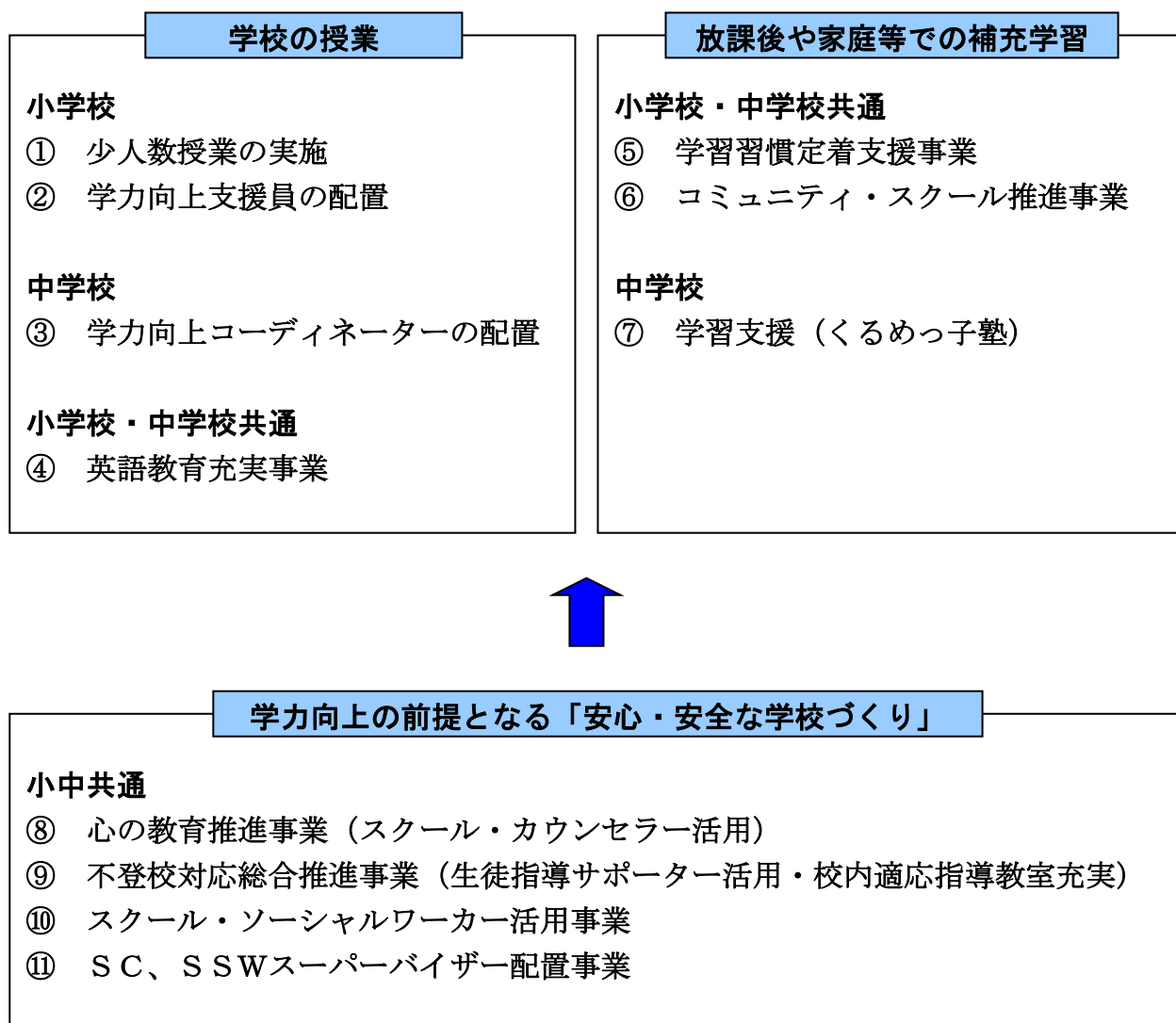
第3回会議では、これまでの会議の結果等を踏まえ、市教育委員会において検討し、平成29年度に取り組む施策について報告する。今後、予算案の議決を受けたうえで、今回の会議の意見等を念頭に置きながら、具体的に施策を展開するものとする。

3 平成29年度の取組概要（案）

(1) 学力の保障と向上に関する施策体系

学力向上を図る施策は、「学校の授業」と「授業以外の放課後や家庭等での補充学習」の両面から実施する。

併せて、児童生徒が安心して学び、楽しい学校生活を送ることが学習意欲や自尊感情の向上につながり、学力向上の前提として不可欠であるため、不登校対応など安心・安全な学校づくりに係る施策を実施する。



(2) 施策の概要

施策体系に掲げる各事業の概要は、次のとおりである。なお、表中の金額は、各年度の予算額である。

① 少人数授業の実施

一人ひとりの児童へのきめ細かな対応を図るため、学校の状況に応じて非常勤講師を配置（小学校3年生と4年生に19名）し、少人数授業を実施する。	H28	44,964千円
	H29	45,139千円
	増減	+175千円

② 学力向上支援員の配置

授業改善・補充学習・学習規律の確立にかかる支援を行う支援員を配置（小学校5年生において5校）する。	H28	11,832千円
	H29	11,880千円
	増減	+48千円

③ 学力向上コーディネーターの配置

学力向上の核となり、企画立案や調整等を行うコーディネーターに教務担当主幹教諭を充て、当該職務に専念するために必要となる非常勤講師を配置（全17中学校）する。	H28	27,497千円
	H29	27,712千円
	増減	+215千円

④ 英語教育充実事業

小学校教員の英語力の育成と外国語活動における指導力の向上を目指し、集中研修を実施する。 中学校では、英語学習への動機付けや英語運用能力の向上を図るため、宿泊型研修（イングリッシュキャンプ）の実施や全3年生に対する英語検定受験料の助成を行う。	H28	小	5,156千円
		中	9,296千円
	H29	小	5,155千円
		中	10,910千円
	増減	+1,613千円	

⑤ 学習習慣定着支援事業

児童生徒の自学自習の習慣を定着させるため、地域住民や大学生等のボランティアを派遣して、放課後等の学習支援を全46小学校と11中学校で実施する。(6中学校分は、⑥コミュニティ・スクール推進事業へ移管するため、予算額は減で計上している。)	H28	小	3,582千円	
		中	1,360千円	
	H29	小	3,582千円	
		中	890千円	
	増減			▲470千円

⑥ コミュニティ・スクール推進事業

地域学校協議会を中心として、学校・家庭・地域の連携を更に強化し、「開かれた学校づくり」に向け、特色ある学校づくりや様々な教育課題の解決など、地域や学校の特性を生かした協働の取り組みを進める。 また、学校・家庭・地域が連携した学習習慣の定着を推進するため、中学校のモデル6校において、補充学習の取組を強化する。	H28	小	19,377千円	
		中	7,401千円	
	H29	小	19,690千円	
		中	11,673千円	
	増減			+4,585千円

⑦ 学習支援（くるめっ子塾）

学力の定着と子どもの居場所づくりのため、中学生を対象とした無料の学習支援塾を設置する。	H28		4,860千円
	H29		5,230千円
	増減		+370千円

⑧ 心の教育推進事業

児童生徒の指導上の諸問題の解決や、教育上特別の支援を必要とする児童生徒の学校生活へのよりよい適応を促すため、臨床心理に関する専門知識を有するスクール・カウンセラーを配置する。	H28	小	16,172千円	
		中	11,016千円	
	H29	小	20,854千円	
		中	11,016千円	
	増減			+4,682千円

⑨ 不登校対応総合推進事業

各小学校が生徒指導サポーターと連携を図りながら、不登校や不登校傾向にある児童に対する早期からの支援を行う。小学校19校に配置する。	H28	小 14,181千円
		中 33,551千円
不登校や不登校傾向にある生徒に、校内での居場所となる校内適応指導教室を設置し、指導教室助手を配置して教室に復帰できるよう支援を行う。全17中学校に置く。	H29	小 14,026千円
		中 33,551千円
	増減	▲155千円

⑩ スクール・ソーシャルワーカー活用事業

社会福祉士等の専門知識を有するスクール・ソーシャルワーカーを配置し、問題を抱えた児童生徒が置かれた環境への働きかけ、関係機関とのネットワーク活用により課題解決を図る。	H28	11,102千円
	H29	14,808千円
	増減	+3,706千円

⑪ SC、SSWスーパーバイザー配置事業

スクール・カウンセラー、ソーシャルワーカーそれぞれに、高度な専門知識を有するスーパーバイザーを配置し、困難事例等に対する相談体制を強化する。	H28	—
	H29	+1,536千円
	増減	+1,536千円

総計

H28	221,347千円
H29	237,652千円
増減	+16,305千円

4 平成29年度の新たな取組等（案）

福井県・秋田県の視察結果や総合教育会議の意見等を踏まえ、平成29年度及び当該年度に向けて新規・拡充・改善する取組は、次のとおりである。

取組1 学校が学力調査の分析に基づく検証改善サイクルを作成・実施する

区分	学校の授業	新規
見直しの要因	<p>① 福井県・秋田県と久留米市では、「教育委員会の学校への関わり」「学力調査の結果分析や宿題のフォローなど学校の取組の計画性と徹底度」に差がある。</p> <p>② わかる授業づくりや日常の学習体制づくりに関して、学校や教職員間に課題がある。</p>	
見直しの基本方針	<p>各学校が全国学力・学習状況調査等の結果を分析し、それらに基づく学校の実態に応じた教育活動が具体的に展開されることによって、児童生徒の入替わりや教職員の人事異動に左右されにくい学校総体としての検証改善システムを構築する。</p>	
具体的な実施内容	<p>① 各学校の学力向上コーディネーターが、自校の全国学力・学習状況調査等の結果を分析し、小5と中2に対する月別の具体的な取組計画を立案する。（次頁参照）</p> <p>② 次年度の全国学力・学習状況調査で、全国平均正答率との差をどれくらい縮小するのかの数値目標を掲げる。</p> <p>③ 学力向上コーディネーターに対する教育委員会のヒアリングや学校訪問を行い、「検証改善システムの策定」「学力低位層に対する補充学習」「宿題のシステム化」等に関する指導を行う。</p> <p>④ 学校の管理職や学力向上コーディネーターが参画する学力向上研修会や学力向上コーディネーター連絡会議を開催し、グループ討議等を通して取組を図る。</p>	

取組2 学生や地域の人材との協働により、中学校の補充学習システムを構築する

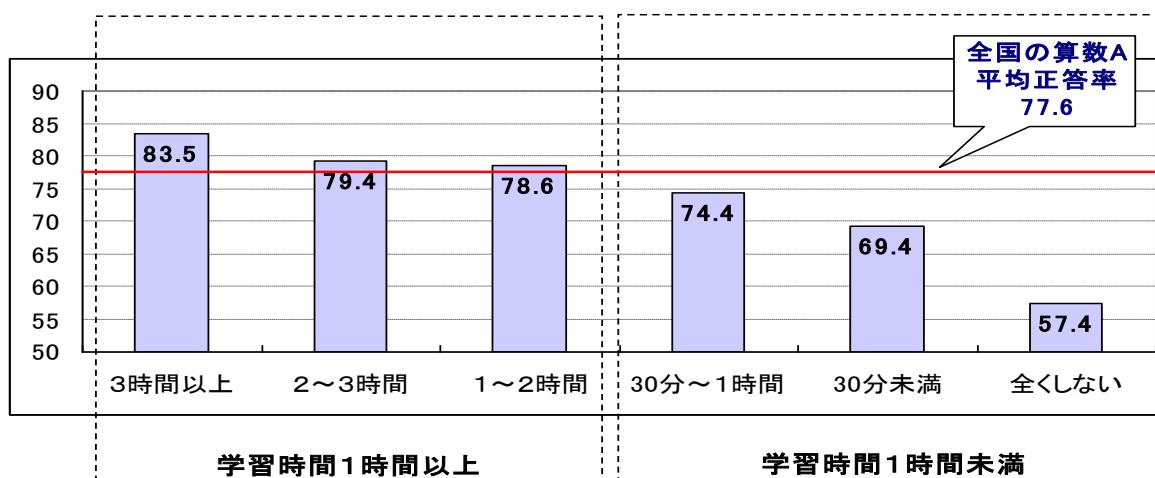
区分	放課後や家庭等での補充学習	新規
見直しの要因	以下のとおり。	

- ① 学力が全国トップクラスの秋田県・福井県を調査した結果、学校で学習したことの定着を図るため、学校・家庭・地域において家庭学習の意識付け（学習習慣の定着）が醸成されており、高い学力維持の基盤になっていた。
- ② 久留米市では、1時間以上家庭学習する小学6年生・中学3年生の割合は、全国平均をやや下回る。全く家庭学習をしない児童・生徒は全国平均より多い。

平日に家庭学習を1時間以上している児童生徒の割合

小学6年生		中学3年生	
久留米市	秋田県	久留米市	秋田県
55.7%	72.2%	63.8%	80.7%

- ③ 久留米市では、家庭学習が1時間以上の児童生徒は、全国の平均値（77.6）を上回っており、家庭での学習時間と学力に強い相関がある。



見直しの基本方針	<p>基礎的・基本的な学習内容の理解、学習習慣の定着を目的とし、学生や地域の人材を活用することによって、学校・家庭・地域の連携による学習支援体制を組織的・人材的に整備し、学力に関心を持つ地域風土づくりにつなげる。</p>
具体的な実施内容	<p>① 中学校くるめ学力アップ推進事業の「学習習慣定着事業」を「コミュニティ・スクール推進事業」に位置付け、モデル校6校の地域学校協議会に設置する「放課後学習会運営委員会」に対して補助金を交付する。(4,302千円)</p> <p>② 運営委員会を代表し、指導員(学習サポーター)の確保や学校や教育委員会との調整等を行うコーディネーターを配置する。</p> <p>③ 学校の協力(場所や教材の提供、経済的に厳しく塾に通っていない生徒の参加推進等)を得ながら、放課後や長期休暇中に補充学習を行う。</p> <p>④ コーディネーターや学習サポーターには一定額の謝金を支給し、人材確保や事業の継続性を担保する。</p>

取組3 地域学校協議会から学力向上に関する提言を受け実施する

区分	学校の授業、放課後や家庭等での補充学習	改善
見直しの要因	<p>取組2のとおり、学力向上には、学校・家庭・地域の連携による学習支援体制の構築が必要である。</p>	
見直しの基本方針	<p>地域学校協議会と学校が学力に関する情報を共有化し、学力向上に関する地域学校協議会の主体的な取組を支援する。</p>	
具体的な実施内容	<p>① 各学校に対して、自校の学力の実態と課題を地域学校協議会と共有するように指導した。</p> <p>② 地域学校協議会会長等研修会(平成29年1月13日・16日・18日)を開催し、学力向上に関する提言と交付金を活用した提言内容の実施を要請した。</p>	

取組4 スクール・カウンセラーとソーシャルワーカーの体制を強化する

区分	安心・安全な学校づくり	改善・拡充																				
見直しの 要因	<p>相談件数が年々増加し、かつ複雑化、困難化している反面、人材確保が困難で、任期が最長3年であることから、義務教育期間を通じた継続的な支援や相談に要するノウハウの蓄積が困難である。</p> <p>スクール・カウンセラー相談件数の推移</p> <table border="1" data-bbox="391 600 1396 712"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>2,579</td> <td>3,095</td> <td>3,631</td> </tr> </tbody> </table> <p>スクール・ソーシャルワーカー相談件数の推移</p> <table border="1" data-bbox="391 806 1396 974"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新規児童生徒数</td> <td>51</td> <td>48</td> <td>86</td> </tr> <tr> <td>継続相談件数</td> <td>633</td> <td>446</td> <td>678</td> </tr> </tbody> </table>		年度	H25	H26	H27	件数	2,579	3,095	3,631	年度	H25	H26	H27	新規児童生徒数	51	48	86	継続相談件数	633	446	678
年度	H25	H26	H27																			
件数	2,579	3,095	3,631																			
年度	H25	H26	H27																			
新規児童生徒数	51	48	86																			
継続相談件数	633	446	678																			
見直しの 基本方針	<ol style="list-style-type: none"> ① 任用条件の見直しによる人材確保と相談対応力の維持向上 ② 増員による量的強化 ③ 困難事例に効果的に対応するための質的強化 																					
具体的な 実施内容	<ol style="list-style-type: none"> ① 任用制度を一般職の任期付短時間勤務職員に変更することで、任期が最長5年となるほか、賞与が支給されるなど待遇が向上する。 ② スクール・ソーシャルワーカーを1人増員し、4人体制とする。 ③ カウンセラー、ソーシャルワーカーそれぞれに、高度な専門知識を有するスーパーバイザーを非常勤特別職として配置する。(1,536千円) 																					

取組5 教育委員会事務局の指導体制を強化する

区分	学校の授業、放課後や家庭等での補充学習、安心・安全な学校づくり	拡充																															
見直しの要因	<p>福井県・秋田県と久留米市では、教育委員会の指導主事の配置較差による学校との関わりに差異が見られた。</p> <table border="1" data-bbox="399 560 1476 974"> <thead> <tr> <th></th> <th>区分</th> <th>福井市</th> <th>秋田市</th> <th>久留米市</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">市立児童生徒数 (H28.5.1現在)</td> <td>児童</td> <td>14,179人</td> <td>14,400人</td> <td>16,474人</td> </tr> <tr> <td>生徒</td> <td>6,724人</td> <td>7,512人</td> <td>7,752人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>20,903人</td> <td>21,912人</td> <td>24,226人</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">市教育委員会の 教育職数 (H28.4.1現在)</td> <td>管理職</td> <td>1人</td> <td>2人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>指導主事等</td> <td>10人</td> <td>16人</td> <td>14人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>11人</td> <td>18人</td> <td>16人</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 教育職数のうち、秋田市と久留米市は教育センターを含む。</p>			区分	福井市	秋田市	久留米市	市立児童生徒数 (H28.5.1現在)	児童	14,179人	14,400人	16,474人	生徒	6,724人	7,512人	7,752人	計	20,903人	21,912人	24,226人	市教育委員会の 教育職数 (H28.4.1現在)	管理職	1人	2人	2人	指導主事等	10人	16人	14人	計	11人	18人	16人
	区分	福井市	秋田市	久留米市																													
市立児童生徒数 (H28.5.1現在)	児童	14,179人	14,400人	16,474人																													
	生徒	6,724人	7,512人	7,752人																													
	計	20,903人	21,912人	24,226人																													
市教育委員会の 教育職数 (H28.4.1現在)	管理職	1人	2人	2人																													
	指導主事等	10人	16人	14人																													
	計	11人	18人	16人																													
見直しの基本方針	<p>学力向上に関する学校の検証改善システム、補充学習の実施、不登校や生徒指導上の対応に関し、小・中・特別支援学校64校に上る指導助言を効果的に行える体制を構築する。</p>																																
具体的な実施内容	<p>学校教育課において指導主事を1人増員する。</p>																																

平成28年度 全国学力・学習状況調査等の分析及び今後の取組計画表

平成28年11月15日

学校名	久留米市立 小学校
-----	-----------

1 全国学力・学習状況調査(小6)の分析		全国正答率との差
国語A	●話す・聞く能力、言語についての知識・理解・技能の2つの領域に課題が見られる。 ・ローマ字の読み書き、漢字を書く、人物像について、複数の叙述を基にして捉えること等が課題	-10.5
国語B	●質問の意図やグラフ等の資料から分かったことを選択するような問題に課題がある。 ・図表やグラフ等の読み方、それらの資料から読み取ったことを的確に表現することが課題	-5.2
算数A	●基礎的・基本的な計算の技能を確実に定着させること。(数と計算、数量関係) ・除数と被除数の関係、繰り下がりのある減法、全体に対する部分の割合、基準量と比較量の関係	-5.4
算数B	●数量関係の問題、記述式の問題での無解答率の高さ ・問題の解決に必要な情報を収集する力、目的に応じて表やグラフを用いて表現したり、判断したりする力を育成する必要がある。	-2.8
学習状況	●家庭学習の時間が短いこと ●平日にメディアに触れる時間が長いこと ●学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることが難しい ●目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりすることが困難	

2 福岡県学力調査(小5)の分析		県正答率との差
国語	○標準化得点で比較すると、昨年度に比べて僅かだが上昇している(経年比較) ●言語に関する領域、観点共に課題がある。	-4
算数	○標準化得点で比較すると、昨年度に比べて上昇している(経年比較) ○数と計算の領域、数量や図形についての技能の観点では、市・県を僅かだが上回っている。 ●量と測定や数量関係の領域、数学的な考え方の観点では、差が大きく課題である。	-2
学習状況	●家庭学習の時間が短いこと ●平日にメディアに触れる時間が長いこと ●学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることが難しい	

3 今後の具体的な取組計画(小5に対する)

取り組みの場	朝のスキルタイム(月火水 8:40-8:50)	学びタイム(金曜放課後 15:30-16:00)	学習指導	その他	実施状況 チェック
11月	①県学力テストのフォローアップシートの取り組み	②アシストシートの取り組み ・基本問題を中心に	⑤Webテスト(第2回)実施 ○日常の授業の充実	* ノーメディアの取り組み(毎週水曜日)	
12月	↓	・チャレンジ問題 ・活用型問題を中心に	↓	* 28年度久留米市学力実態調査(12/19) * 冬期休業期間中の課題の工夫	
1月	③全国学力・学習状況実態調査の過去問(部分・短答問題、A問題を中心に) ・自力解決→解答、解説	④全国学力・学習状況実態調査の過去問(部分・記述問題、B問題を中心に) ・自力解決→解答、解説	↓	* 生活がんばりカードの取り組み(学期当初の1週間)	
2月	↓	↓	↓	* ノーメディアの取り組み強調週間③	
3月	↓	↓	⑤全国学力テストの過去問を解く【1回目】 (全問、国算の時間を使って)	* 学年末休業期間中の課題の工夫	

4 次年度(現小5)の目標値(本年度の全国平均正答率との差を何ポイント上昇させるか)

国語A	国語B	算数A	算数B
4	3	3	2

平成28年度 全国学力・学習状況調査等の分析及び今後の取組計画表

平成28年11月15日

学校名	久留米市立 中学校
-----	-----------

1 全国学力・学習状況調査(中3)の分析		全国正答率との差
国語A	「話すこと」「聞くこと」は全国を上回っていたが、「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質」に関する部分に課題がある。	-3.9
国語B	全体的に解答が選択肢から選ぶことでは正答率が高いが、記述式になると低い傾向がある。「文章の構成や表現の仕方」にも課題がある。	-2.0
数学A	今学習している計算式は理解している生徒が多いが、「分数と小数の乗法」-10.0p、「自然数」-15.2pなどからわかるように、基本的な計算と言葉の意味を理解できていない。	-3.6
数学B	「関数」「資料の活用」は全国平均を上回ったが、「数と式」「図形」は下回っている。また、「三角形の合同の証明」など文章を組み立てて理解することが全体的に苦手である。	-1.0
学習状況	全国や県をかなり上回っているものは、「家で自分で計画を立てて勉強している」5.1p「学校の規則を守っている」10.3p、「いじめはどんな理由であってもいけないことだと思っている」11.2p、「人の役に立つ人間になりたい」8.8p、本校の課題としては、「読書は好きですか」-17.6p、「国語で文章を読むとき、段落や話のまとまり毎に内容を理解しながら読んでいますか」-12.8pということがわかった。	

2 福岡県学力調査(中2)の分析		県正答率との差
国語	言語に関する領域の「小学校既存の漢字」「語句の意味の理解」、読む領域の「登場人物の様子」等の正答率と比較すると、話す・聞く領域の「分かりやすく伝えるために話し方の工夫をすること」「根拠を明確にして考えを具体的に書く」等に課題が見られる。	-1.0
数学	数と式の領域では、「正負の数の計算」等の正答率と比較すると、Aに関しては「図形」「資料の活用」、Bでは「図形の証明」に大きく課題が見られる。	-5.5
学習状況	校内の実態調査とあわせると、数学と国語ともに、文章内容を理解する力に苦手意識が見受けられ、意欲的に取り組めていない状況が見られる。数学に関してもできない、ほとんどの分野について、家庭学習にも課題があるため、学力の向上に結びつかないと考えられる。	

3 今後の具体的な取組計画(中2に対する)		実施状況 チェック
11月	(国) 期末考査に向けて、「根拠を明確にして考えを具体的に書く」等の課題克服を意図し、授業や自学で問題に取り組ませる。 (数) 期末考査に向けて、ドリル形式で「関数」にかかる問題を多く解かせ、解き方に慣れさせる。	
12月	(国) 到達度テストの結果を受けて、みえてきた課題に取り組ませる。家庭学習の徹底に合わせて、家庭での読書時間を多くするよう学年・PTAと連携する。 (数) 到達度テストの結果を受けて、みえてきた課題に取り組ませる。学年・PTAと連携し、家庭学習の充実を図る。	
1月	(国) 冬休みの課題とフォローアップワークシートについて、学年と連携し、本人の「つまずき」を明らかにし、繰り返しの学習を徹底する。12月から引き続き、家庭での読書時間の確保を図る。 (数) 冬休みの課題とフォローアップワークシートについて、学年と連携し、本人の「つまずき」を明らかにし、繰り返しの学習を徹底する。授業をTTから習熟度別等の少人数に変え、基礎基本を強化する。	
2月	(国) フォローアップワークシート・家庭での読書時間の取組に加え、自学ノートに天声人語の書き写し導入し、文章の構成と辞書を引き意味を理解させ、内容を深く読み取らせることに慣れさせる。 (数) 冬休みの課題とフォローアップワークシート・少人数の取組に加え、放課後学習教室の生徒メンバーを広げ、学力の補充強化を図る。	
3月	(国) 2月までの取組に加え、「実力を発揮する」取組として、本校の課題のある分野や、活用力を問う問題にふれさせ、蓄えた力を発揮することができるように図る。 (数) 2月までの取組に加え、「実力を発揮する」取組として、本校の課題のある分野や、活用力を問う問題にふれさせ、蓄えた力を発揮することができるように図る。	

4 次年度(現中2)の目標値(本年度の全国平均正答率との差を何ポイント上昇させるか)

国語A	国語B	数学A	数学B
1.9	1.0	1.6	0.0

平成28年度 第3回 久留米市総合教育会議

議題2

久留米市教育に関する大綱及び第3期久留米市教育
改革プランの進捗状況について

平成29年2月22日

目 次

1	久留米市教育に関する大綱について	1
2	大綱の進捗状況	3
3	第3期久留米市教育改革プランについて	10
4	第3期プランの進捗状況	13
5	総括と今後について	18

1 久留米市教育に関する大綱について

(1) 大綱の位置付け

久留米市教育に関する大綱（以下「大綱」といいます。）は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の3第1項の規定に基づくものであり、久留米市新総合計画第3次基本計画（以下「新総合計画」といいます。）を踏まえて、学校教育や社会教育等に関する基本方針・基本目標を定めています。

なお、大綱は、同法の改正に伴い、平成27年4月より設置した総合教育会議の協議を踏まえて策定しています。

(2) 大綱の範囲

主として教育委員会の所管事項を対象範囲とすることから、学校教育・社会教育・文化財・スポーツを中心としますが、教育に密接に関連する人権啓発・青少年健全育成などの取組も対象としています。

(3) 対象期間

新総合計画の理念や施策等との整合性を図る観点から、平成27年度から31年度までの5年間としています。

(4) 大綱の理念

大綱では、一人ひとりを大切にした未来を担う人づくりを進めるために、「未来に希望の持てるまちづくりに向けて、教育の充実を図る」「子どもたちの生きる力を育み、市民一人ひとりが生涯を通じて学ぶことのできる環境づくりを進める」という理念を掲げています。

(5) 基本方針と基本目標

大綱の理念を実現するための3つの基本方針を掲げ、学校教育や社会教育、文化芸術、スポーツなど各分野の施策の方向性を示しています。

また、7つの基本目標を掲げ、理念や基本方針を実現するための中心となる施策内容を掲げています。

基本方針 1

子どもの笑顔があふれるまち

基本目標 1 生きる力の育成

確かな学力、豊かな心、健やかな体のバランスのとれた「生きる力」を持ち、次代を担う子どもたちを育成する施策を進めます。

特に学力の保障と向上に向け、教職員の授業力を高めるための研修やICTの活用を一層進めるとともに、きめ細かな学習指導、学習習慣の定着や補充学習、学校外で実施する無料学習支援などの充実強化を図ります。

基本目標 2 特色ある教育の推進

郷土愛を育むために郷土の自然や文化、歴史などをテーマに探求的な学習を行う「くるめ学」に取り組みます。併せて、質の高い文化芸術などに触れ、感性や創造性を育む取組や環境交流プラザを活用した環境教育の推進など、特色ある教育を進めます。また、異文化理解やコミュニケーションの重要性を踏まえ、外国語教育の充実を進めます。

基本目標 3 安心して学べる学校教育の環境づくりの推進

いじめ根絶の取組強化、不登校対策や心の健康づくりの推進、特別支援教育や相談体制の充実を図るとともに、学校施設の計画的な改築改修、学校規模に応じた通学区域の設定などの教育環境づくりを進めます。

また、セーフスクール推進事業に取り組むとともに、地域学校協議会を充実し、学校と家庭、地域が連携して子どもたちを支える仕組みづくりを推進します。

基本目標 4 子どもの健やかな育ちを支える環境づくりの推進

子どもが豊かな人間性を備え、他者とともに社会の一員としての役割を果たすような人として成長できるよう、青少年の非行防止や健全育成に取り組むとともに、立ち直り支援の取組を推進します。また、学童保育所をはじめとする小学生児童の放課後の安全な居場所づくりに取り組みます。

基本方針 2 心豊かな市民生活を創造するまち

基本目標 5 生涯を通じて学び、活かせる環境の整備

社会的なニーズや課題に対応した講座やイベントの開催など、誰もが学べる機会を充実するとともに、個々のニーズに応じた生涯学習情報の提供を充実します。
特に、市民のまちづくり活動の活性化に不可欠な要素となる主体的な生涯学習活動の促進に取り組みます。

基本目標 6 誰もが楽しめるスポーツの振興

すべての市民がスポーツを楽しみ、健康づくりを進める機会や場を充実するとともに、久留米総合スポーツセンターを積極的に活用し、総合的なスポーツ振興に取り組みます。特に、学校体育・運動部活動の充実を図り、児童生徒の健やかな体の育成に取り組みます。

基本方針 3 人権が確立されたまち

基本目標 7 人権意識の確立

自分の人権の大切さとともに、他者の人権の大切さも認め、それが態度や行動に現れるような市民意識を醸成するため、あらゆる機会、あらゆる場において、人権教育・啓発を進めていきます。
また、市民が自主的に人権尊重の意義や考え方、人権問題の現状、解決に向けた取組などを学べるよう、学習の機会の充実や場の確保、情報提供等の環境整備を進めます。さらに、学校、地域、家庭の連携のもと、人権のまちづくりを進めることにより、地域における身近な市民主体の人権啓発活動を推進します。

2 大綱の進捗状況

大綱のうち、第3期久留米市教育改革プランに関わる部分については、第3期プランの進捗状況として後述します。

ここでは、第3期プランの評価指標を除く大綱の進捗状況について、平成28年度久留米市教育施策要綱の評価及び新総合計画の事業計画の取組実績より記載します。

表中の評価欄の記号は、以下のとおりです。

評価欄	◎ 達成（予定通り進捗） ○ 概ね達成（概ね予定通り進捗） △ 未達成（予定通り進捗せず） × 未着手
-----	--

基本目標 2 特色ある教育の推進

具体的施策 (担当課)	概 要	成果目標等	28年度の成果等	評価
くるめ学子ども サミット (学校教育課)	<p>【目的】 久留米の自然、産業、文化、祭り、歴史を築いてきた先人や久留米に生きる人々などについて知り、それを久留米のよさとしてとらえ、ふるさと久留米への誇りと愛情を育むことを目指す。</p> <p>【内容】</p> <p>① くるめ学副読本を活用し、総合的な学習の時間に位置付けた実践事例を収集し、事例集を発行する。</p> <p>② くるめ学子どもサミットを開催し、小・中学校で実施されたくるめ学の学習成果の発表を行う。</p>	くるめ学子どもサミットのアンケート調査による満足度 80%	<p>① くるめ学子どもサミットに参加した小中学校 4 校の実践事例をサミット時に参加した教職員へ配布した。</p> <p>② 12月5日に久留米シティプラザで第5回くるめ学子どもサミットを開催 実施後のアンケート結果は教職員の 99%、市民・保護者の 100%、児童生徒の 98%が「とても満足」「満足」と回答</p>	◎
中学校美術教育 振興事業 (学校教育課)	<p>【目的】 中学生の美術に関する興味・関心を高め、豊かな心と郷土を愛する心を育む。</p> <p>【内容】 久留米市美術館における企画展・常設展並びに有馬記念館において行われる企画展・常設展の鑑賞のために、各中学校第1学年の全生徒に対してバスの借上げを行う。</p>	<p>① 全17中学校での市美術館見学とバスの借上げ</p> <p>② 報告書と生徒の感想による成果の分析</p>	<p>① 全中学校分の日程調整、バスの借上げができた。</p> <p>② 教科書の中で見ることが多い美術作品を実際に見て、ボランティアの方の丁寧な説明もあり、生徒の興味関心が高まったことが、報告書や生徒の感想から分かる。</p>	◎

具体的施策 (担当課)	概要	成果目標等	28年度の成果等	評価
久留米シティ プラザの活用 (学校教育課)	<p>【目的】 久留米シティプラザを活用し、児童生徒の豊かな感性や創造性を養う文化活動の充実を図る。</p> <p>【内容】</p> <p>① 学校行事等で久留米シティプラザを活用する際の情報提供や連絡調整を行う。</p> <p>② 久留米シティプラザ見学の際のバス借上げを行う。</p>	<p>① 小中学校が学校行事等で久留米シティプラザを活用する。</p> <p>② 美術振興事業において、可能な場合は久留米シティプラザを見学する。</p>	<p>① ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団のリハーサルに、中学校7校、高校3校の吹奏楽部員等約340人が招待された。</p> <p>② 中学校13校の生徒等6,629人が九州交響楽団のコンサートを聴いた。</p> <p>③ その他、小学校1校、中学校2校の活用があった。更に中学校1校が見学を予定している。</p>	◎
宮ノ陣クリーン センター環境 交流プラザの 活用 (学校教育課)	<p>【目的】 宮ノ陣クリーンセンター環境交流プラザを活用し、児童生徒の自然環境を大切にすることを育む環境教育の充実を図る。</p> <p>【内容】 教科学習等（社会科、総合的な学習の時間）において、宮ノ陣クリーンセンター環境交流プラザを活用する。</p>	小学校が教科学習等において、環境交流プラザを活用する。	<p>① 市内の小学校36校、附属久留米小、特別支援学校、聴覚特別支援学校1校、田主丸特別支援学校1校の計40校の活用があった。</p> <p>② 活用目的は、4年生社会科「ごみのゆくえ」等による社会見学での活用であった。</p>	○

基本目標3 安心して学べる学校教育の環境づくりの推進

具体的施策 (担当課)	概要	成果目標等	28年度の成果等	評価
学校施設の整備 充実 (学校施設課)	児童生徒の生命を守り、災害時の地域の避難施設を確保し、多様で新しい学習活動に対応した教育環境の整備を進めるため、学校施設の改築を計画的・効率的に行う。	小学校と中学校各1校の改築を進め、新たに小学校1校の改築に着手する。	日吉小の供用開始、屏水中の工事実施のほか、篠山小の改築工事に着手した。また、国費の採択による京町小の予算措置を実施した。	◎

具体的施策 (担当課)	概 要	成果目標等	28年度の成果等	評価
学校施設長寿命化事業 (学校施設課)	学校施設における建替コスト縮減、改修時期の調整による財政平準化、環境負荷の低減等を図るため、防水・外壁工事など施設の長寿命化を図る。	校舎外壁改修6校、防水改修5校、便所改修12校等を行い、施設の長寿命化を図る。	28年度当初の国費が未採択となったため、外壁・屋体外部・防水改修の着工ができなかった。なお、当該分については、国の経済対策に伴い、補正予算による予算確保を行った。	○

基本目標4 子どもの健やかな育ちを支える環境づくりの推進

具体的施策 (担当課)	概 要	28年度の成果等	今後の見込み	評価
非行を生まない社会づくり事業 (青少年育成課)	非行を生まない社会を目指すため、市民や児童生徒を対象とした啓発活動を行う。特に、高校生や中学生については、生徒会を通じて生徒自らが考えながら自校生徒の意識を高める取り組みを行う。 また、立ち直り支援についても、多くの関係団体等からの参加を得ながら、少年の立ち直りへの意欲向上を図る。	①市民等への街頭啓発活動 (15回) ②児童生徒への各種啓発教室 ・非行防止教室(14回) ・薬物乱用防止教室(47校) ③重点的な啓発活動(4回) ・児童・保護者対象防犯教室 ・高校生による討論会の開催 ・部会主催の啓発キャンペーン ④立ち直り支援活動 ・奉仕活動等体験活動(17回)	社会全体で社会づくりを進めるためには、市民や児童生徒の意識を高め、かつ活動に参加することが重要であることから、より多く、かつ継続して活動に取り組む。	◎

具体的施策 (担当課)	概 要	28年度の成果等	今後の見込み	評価
学童保育所整備推進事業 学童保育所運営事業 (子ども政策課)	放課後等に家庭での養育を受けられない児童のため、学校と連携した学童保育の環境整備を行い、低学年の受入体制を充実するとともに、高学年についても受入の拡大に向けた検討を進める。	① 鳥飼、西牟田学童の専用施設の整備及び日吉、篠山学童の学校施設との合築による整備を行った。また、高学年を28年度から23校区で受入開始し、29年度から新たに13校区で開始するため、教育部や学校との調整を行った。 (拡大定員) 日吉第1～第3 (60人) 鳥飼第3・第4 (80人) 西牟田第2 (40人) ② 45校区の学童保育所において、放課後児童の安全な居場所の提供を行った。 (85クラブ 3,793人)	引続き低学年児童の定員拡大に向けた施設整備を計画的に進めるとともに、高学年児童受入のための学校施設等の活用の調整に努める。 また、年々増加する利用ニーズに対応するため、指導員の確保に努めるとともに、保育の質の更なる向上を図る。	◎

基本目標5 生涯を通じて学び、活かせる環境の整備

具体的施策 (担当課)	概 要	成果目標等	28年度の成果等	評価
地域生涯学習 振興事業 (生涯学習推進課)	校区等において実施される委嘱学級や土曜塾をはじめとする生涯学習事業に対して、財政支援や指導者の養成などの各種支援を行い、地域における生涯学習の振興を図る。	① 人権のまちづくりコーディネーター講座（5回）やまちづくりネットワーク講座（3回）等を実施し指導者の養成を図る。 ② 市民学習部会で委嘱学級や土曜塾の情報交換を行う。	① 人権のまちづくりコーディネーター講座のべ参加者数95名。まちづくりネットワーク講座のべ参加者数は91名 各講座では前年度の受講生に校区における指導者の立場での実践事例を発表してもらった。 ② 市民学習部会では、委嘱学級や土曜塾の校区事例を部会員に報告してもらったり、グループ交流を行ったりして情報交換を行った。	◎
体験活動推進事業 (生涯学習推進課)	少年の翼、アドベンチャーキャンプ、わくわく遊友体験などの体験活動事業を通じ、団体生活の楽しさや友情の深まりなどを体験する場を創出し、子どもたちの自主性・協調性・創造性を育む。	重点事業である少年の翼参加者の地域、学校等行事への参加意欲度80%以上	① 少年の翼（7～11月）参加者：75人 ② 事業参加後の地域・学校行事等への参加意欲度84.5%（事後アンケートより）	◎

基本目標6 誰もが楽しめるスポーツの振興

具体的施策 (担当課)	概要	28年度の成果等	今後の見込み	評価
市民スポーツ 推進事業 (体育スポーツ課)	校区を中心に、市民が主体的にスポーツと触れ合う新しい仕組みづくりを行い、市民が気軽にスポーツに親しめる環境を整備することで、平成31年度時点で市民の週1回運動・スポーツ実施率50%を目指す。	6校区と1つの総合型地域スポーツクラブでモデル的にスポーツ教室を開催した。(①長門石 ②北野 ③水縄 ④大善寺 ⑤篠山 ⑥荘島 ⑦南薫クラブ)	27～28年度に実施したモデル事業を基に、29年度から総合型地域スポーツクラブ連絡協議会が実施主体となって、運動習慣のない市民への運動メニューを実施する。	○

6

基本目標7 人権意識の確立

具体的施策 (担当課)	概要	成果目標等	28年度の成果等	評価
人権教育・啓発 推進事業 (人権・同和教育課)	すべての中学校区毎に「人権のまちづくり推進協議会」を設置し、これを中心とした地域主体の人権教育・啓発を推し進め、差別をなくす意志と実践力を身につけた豊かな人権感覚を持った市民の育成を図る。	「差別をなくす努力をする」市民の割合50%以上	平成27年度は52.4%であり、引き続き「人権のまちづくりブロック研修」を3地区で開催し、モデル校区における取組の成果を市内全域へ発信したうえで、各中学校区人権のまちづくり推進協議会の取組の深化を図った。	○

3 第3期久留米市教育改革プランについて

(1) プランの位置付け

第3期久留米市教育改革プラン（以下「第3期プラン」といいます。）は、新総合計画及び大綱に掲げられた理念や基本方針等の実現に向けて、教育基本法に基づいて定めた市の教育振興基本計画であり、教育施策に関する中期的事業プランと位置付けています。

したがって、第3期プランは、大綱に基づき、特に学校教育分野を対象として具体的な教育施策等を定めたものとなります。

(2) 計画期間

第3期プランの計画期間は、新総合計画及び大綱の期間を踏まえて、平成28年度から31年度までの4年間としています。

(3) 第3期プランの目標

第3期プランの目標は、「ふるさと久留米を愛し、ともに社会を生き抜く力の育成」です。そのために育成したい力として次の3つを掲げています。

まなぶ力 【知】	学びへの意欲、知識や技能、思考力・判断力・表現力など
つながる力 【徳】	他者への思いやり、規範意識や社会のルールを守る力など
やりぬく力 【体】	考え抜く力、困難を乗り越えようとする強い意志など

(4) 目指す子どもの姿

一人ひとりの子どもが将来の夢や希望、目標に向かって志をもち、仲間とともに切磋琢磨し、粘り強く学び続けることができるように、第3期プランでは、目指す子どもの姿を **夢に向かって学ぶ「くるめっ子」** と設定しています。

併せて、目指す姿を具体化する上で、どの子どもにも徹底したいこととして、**あいさつ・そうじ・自学自習** の3つを大切にします。

(5) 3つの重点

第3期プランでは、第2期プランで達成した事項の「効果の持続」と、達成に向かっていない事項や未達成の事項は達成に向けて改善に取り組む「課題の改善」を基本方針とし、以下の3点で重点化を図ります。

重点1 わかる授業【学力の保障と向上】

毎日の授業や校内研修のあり方等を見直し、子どもに基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につけさせるとともに、これらを活用して課題解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を伸ばすことで、授業がわかり、学ぶ楽しさを味わうことができる子どもを育てます。

また、「くるめ学」の学習や外国語教育を充実させるとともに、ICTの活用を一層進め、学力の保障と向上に努めます。

重点2 たのしい学校【安全・安心な学校づくり】

不登校やいじめ問題への対策を行い、安心して学び楽しい学校生活を送れるようにします。その中で、自分の大切さとともに他者の大切さを認め、共感・協調できる子どもを育てます。

また、セーフスクールの取組を充実させることで、子ども自らがいかに自分で自分の身を守るかを意識し、自ら安全な行動ができるよう指導の充実を図ります。さらに、校務運営の効率化を図ることで、教師が子どもと向き合う時間を確保し、安全・安心な学校づくりに努めます。

重点3 久留米版コミュニティ・スクールの推進【学校・家庭・地域の協働】

地域学校協議会を充実させ、提言の実働化と学校関係者評価の充実を図っていきます。具体的には、地域人材の積極的な活用を図ることで、子どもたちの学習習慣定着や基礎的・基本的な知識・技能の定着を中心とした取組、健やかな成長を支える生活習慣づくりの取組、健全育成の取組などを推進していきます。

(6) 4つの視点

第3期プランでは、3つの重点を貫く4つの視点を設定し、重点に係る具体的な施策を展開する上で一貫性や関連性を持たせ、効果的に取組を推進します。

視点1 人権・同和教育の推進

人権感覚を高め続ける教職員の存在等、人権が尊重された環境のもと、全教科等を通じて、児童・生徒一人ひとりが自他を大切にできる態度や技能を身につけることができる学校づくりを進めます。

視点2 外国語教育の推進

外国語活動や英語教育を中心に、学校の教育活動全体を通じて異なる文化や人々に対する理解を深め、子どもたちが急速なグローバル化が進む国際社会の中で生き抜くために、必要な資質・能力の育成を重視した学校づくりを進めます。

視点3 特別支援教育の推進

子ども一人ひとりの教育的ニーズに応じる特別支援教育を充実するとともに、誰もがわかりやすい授業、誰もがすごしやすい学校生活を提供できるユニバーサルデザインの学校づくりを進めます。

視点4 小中連携教育の推進

中学校入学後に不登校生徒数が増加するという中1ギャップを克服し、学習や生活について、中学校でのよりよい適応を目指す小中学校間の連携を行う学校づくりを進めます。

(7) 第3期プランの概要図

久留米市新総合計画〔第3次基本計画〕「市民一人ひとりが輝く都市久留米」
 ◆子どもの笑顔があふれるまち ◆人権の尊重と男女共同参画が確立されたまち
【教育に関する大綱】
 「一人ひとりを大切にした未来を担う人づくり」への取組→学力の保障と向上、特色ある教育

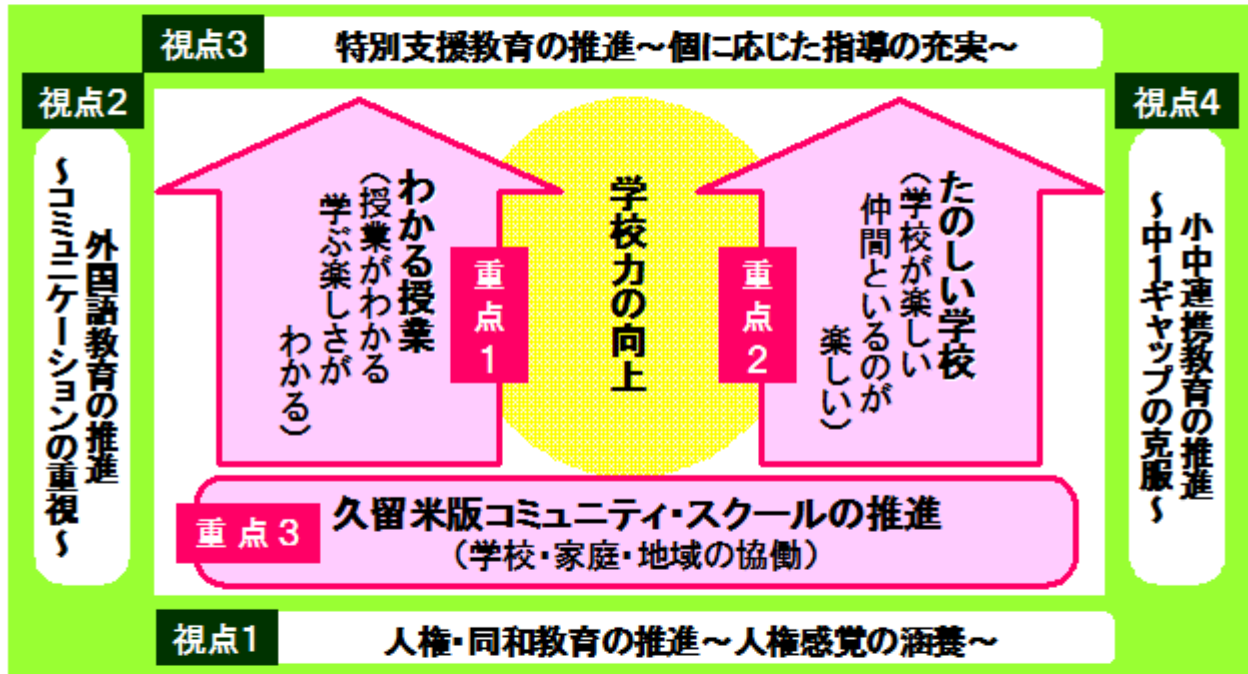


第3期教育改革プランの目標

ふるさと久留米を愛し、ともに社会を生き抜く力の育成
 [まなぶ力・つながる力・やりぬく力]

目指す姿

夢に向かって学ぶ「くるめっ子」
 [あいさつ・そうじ・自学自習]



効果(不登校の予防と解消)の持続と課題(学力の保障と向上)の改善

第2期久留米市教育改革プラン(H23～H27:5カ年間)の総括
【学校教育の現状と課題】

各具体的な目標について「取組の目標」の達成状況と課題の整理

具体的目標2:豊かな心の育成

具体的目標3:確かな学力の育成

具体的目標1:健やかな体の育成

具体的目標4:家庭・地域との連携と学校力の向上

4 第3期プランの進捗状況

第3期プランの進捗状況は、プランの評価指標に基づいて評価します。なお、表中の評価欄の記号は、以下のとおりです。

評価欄	◎ 達成（予定通り進捗）	○ 概ね達成（概ね予定通り進捗）
	△ 未達成（予定通り進捗せず）	× 未着手

重点1 わかる授業【学力の保障と向上】

	施策	評価指標	策定時 (%)																											
	28年度の成果等		現在 (%)																											
	課題と今後の取組等																													
1	授業改善への支援 (学校教育課)	全国学力・学習状況調査結果で全国平均を超える。 (全国学力・学習状況調査)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>(H27)</th> <th>久留米市</th> <th>全国</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小6国語A</td> <td>68.3</td> <td>70.0</td> </tr> <tr> <td>国語B</td> <td>63.2</td> <td>65.4</td> </tr> <tr> <td>算数A</td> <td>72.1</td> <td>75.2</td> </tr> <tr> <td>算数B</td> <td>42.7</td> <td>45.0</td> </tr> <tr> <td>中3国語A</td> <td>72.3</td> <td>75.8</td> </tr> <tr> <td>国語B</td> <td>62.6</td> <td>65.8</td> </tr> <tr> <td>数学A</td> <td>60.3</td> <td>64.4</td> </tr> <tr> <td>数学B</td> <td>37.3</td> <td>41.6</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 平均正答率の数値</p>	(H27)	久留米市	全国	小6国語A	68.3	70.0	国語B	63.2	65.4	算数A	72.1	75.2	算数B	42.7	45.0	中3国語A	72.3	75.8	国語B	62.6	65.8	数学A	60.3	64.4	数学B	37.3	41.6
	(H27)	久留米市	全国																											
小6国語A	68.3	70.0																												
国語B	63.2	65.4																												
算数A	72.1	75.2																												
算数B	42.7	45.0																												
中3国語A	72.3	75.8																												
国語B	62.6	65.8																												
数学A	60.3	64.4																												
数学B	37.3	41.6																												
評価	△		<table border="1"> <thead> <tr> <th>(H28)</th> <th>久留米市</th> <th>全国</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小6国語A</td> <td>68.3</td> <td>72.9</td> </tr> <tr> <td>国語B</td> <td>57.6</td> <td>57.8</td> </tr> <tr> <td>算数A</td> <td>75.9</td> <td>77.6</td> </tr> <tr> <td>算数B</td> <td>46.9</td> <td>47.2</td> </tr> <tr> <td>中3国語A</td> <td>72.7</td> <td>75.6</td> </tr> <tr> <td>国語B</td> <td>63.8</td> <td>66.5</td> </tr> <tr> <td>数学A</td> <td>57.8</td> <td>62.2</td> </tr> <tr> <td>数学B</td> <td>40.0</td> <td>44.1</td> </tr> </tbody> </table>	(H28)	久留米市	全国	小6国語A	68.3	72.9	国語B	57.6	57.8	算数A	75.9	77.6	算数B	46.9	47.2	中3国語A	72.7	75.6	国語B	63.8	66.5	数学A	57.8	62.2	数学B	40.0	44.1
(H28)	久留米市	全国																												
小6国語A	68.3	72.9																												
国語B	57.6	57.8																												
算数A	75.9	77.6																												
算数B	46.9	47.2																												
中3国語A	72.7	75.6																												
国語B	63.8	66.5																												
数学A	57.8	62.2																												
数学B	40.0	44.1																												
<p>全ての教科区分で、久留米市の平均正答率は国・県の平均正答率を下回った。そこで、学力テストの結果を検証改善するシステムを各学校に立案させ、実効的な学力向上の取り組みに努める。そのうえで、各学校で授業改善と補充学習を通じた基礎・基本的な内容の習得や活用力を高める指導体制の充実に努める。</p>																														

	施策	評価指標	策定時 (%)	
	28年度の成果等		現 在 (%)	
	課題と今後の取組等			
2	外国語教育の推進 (学校教育課)	中学校3年生までの英検3級の 取得率が全国平均を超える。 (英語教育実施状況調査)	(H27)久留米市 取得率 15.9	(H26)全国 取得率 18.4
	評価	◎	(H28)久留米市 取得率 20.8	(H27)全国 取得率 18.9
	<p>中学3年生の英検3級以上の取得率は、平成27年度時点の全国平均を超えることができた。</p> <p>中学3年生の約5割にあたる生徒が英検3級を受験し、合格率は23.6%となり、取得率は27年度の全国平均を上回っている。また、次年度から記述式の問題が出題されることになっており、自分の考えを英語で表現する等の英語力向上を図るための指導方法の工夫改善について指導助言を行う。</p>			

	施策	評価指標	策定時 (%)		
	28年度の成果等		現 在 (%)		
	課題と今後の取組等				
3	教師力向上への支援 (学校教育課) (教育センター)	授業がわかると答える児童生徒 の割合や学校に行くのが楽しい と答える児童生徒の割合が全国 平均を超える。 (全国学力・学習状況調査)	(H27)	久留米市	全国
	評価	△	小6国わかる	80.8	82.0
	<p>中学校3年で国語の授業の内容がよくわかると肯定的に回答した生徒の割合は、平成27年度よりも全国平均との差が縮まった。</p> <p>小学校6年の国語、算数及び中学校3年の数学の授業の内容がよくわかると肯定的に回答した久留米市の児童生徒の割合は、27年度よりも全国平均との差が開いた。そこで、校内研修や学校訪問での指導・助言等を通して、教職員一人ひとりの授業力の向上に努める。</p>		小6算わかる	79.9	81.0
			中3国わかる	68.6	74.3
			中3数わかる	72.7	71.6
			小6楽しい	84.0	87.0
			中3楽しい	79.8	82.1
			(H28)	久留米市	全国
			小6国わかる	77.2	80.7
			小6算わかる	78.4	80.2
			中3国わかる	73.2	74.1
			中3数わかる	64.6	69.4
			小6楽しい	82.9	86.3
			中3楽しい	79.1	81.4

重点2 たのしい学校【安全・安心な学校づくり】

	施策	評価指標	策定時 (%)														
	28年度の成果等		現在 (%)														
	課題と今後の取組等																
1	不登校対応 (学校教育課)	不登校の出現率が全国を下回り、 復帰率が県を上回ることを維持 しつつ、さらなる改善を目指す。 (児童生徒問題行動等調査)	<table border="1"> <tr> <td>(H26)</td> <td>久留米市</td> <td>全国(県)</td> </tr> <tr> <td>出現率</td> <td>11.5</td> <td>12.6(国)</td> </tr> <tr> <td>復帰率</td> <td>49.6</td> <td>34.8(県)</td> </tr> </table> <p>※出現率＝不登校児童生徒数/全児童生徒数 ※復帰率＝復帰者数/不登校児童生徒数 (いずれも1,000人当たりの割合)</p>	(H26)	久留米市	全国(県)	出現率	11.5	12.6(国)	復帰率	49.6	34.8(県)					
			(H26)	久留米市	全国(県)												
	出現率	11.5	12.6(国)														
復帰率	49.6	34.8(県)															
評価	◎	<table border="1"> <tr> <td>(H27)</td> <td>久留米市</td> <td>全国(県)</td> </tr> <tr> <td>出現率</td> <td>11.3</td> <td>12.7(国)</td> </tr> <tr> <td>復帰率</td> <td>36.8</td> <td>29.2(県)</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <td>H28.12 末時点</td> <td>久留米市</td> </tr> <tr> <td>出現率</td> <td>9.3</td> </tr> <tr> <td>復帰率</td> <td>42.0</td> </tr> </table>	(H27)	久留米市	全国(県)	出現率	11.3	12.7(国)	復帰率	36.8	29.2(県)	H28.12 末時点	久留米市	出現率	9.3	復帰率	42.0
(H27)	久留米市	全国(県)															
出現率	11.3	12.7(国)															
復帰率	36.8	29.2(県)															
H28.12 末時点	久留米市																
出現率	9.3																
復帰率	42.0																
出現率が全国を下回っていても、不登校児童生徒が存在することは課題である。今後、より一層の福岡アクション3の周知徹底、スクール・カウンセラーやスクール・ソーシャルワーカーとの連携を図りながら未然防止、早期発見・早期対応に取り組み、評価指標を達成したい。																	

	施策	評価指標	策定時 (%)														
	28年度の成果等		現在 (%)														
	課題と今後の取組等																
2	いじめ問題対応 (学校教育課)	いじめの認知件数が全国を上回り、 解消率が全国平均を超える。 (児童生徒問題行動等調査)	<table border="1"> <tr> <td>(H26)</td> <td>久留米市</td> <td>全国</td> </tr> <tr> <td>認知件数</td> <td>40.7</td> <td>17.8</td> </tr> <tr> <td>解消率</td> <td>93.7</td> <td>88.9</td> </tr> </table> <p>※ 児童生徒 1,000 人当たりのいじめ認知件数</p>	(H26)	久留米市	全国	認知件数	40.7	17.8	解消率	93.7	88.9					
			(H26)	久留米市	全国												
	認知件数	40.7	17.8														
解消率	93.7	88.9															
評価	○	<table border="1"> <tr> <td>(H27)</td> <td>久留米市</td> <td>全国</td> </tr> <tr> <td>認知件数</td> <td>26.6</td> <td>21.4</td> </tr> <tr> <td>解消率</td> <td>90.9</td> <td>89.1</td> </tr> </table> <p>※ 児童生徒 1,000 人当たりのいじめ認知件数</p> <table border="1"> <tr> <td>H28.12 末時点</td> <td>久留米市</td> </tr> <tr> <td>認知件数</td> <td>25.9</td> </tr> <tr> <td>解消率</td> <td>81.7</td> </tr> </table>	(H27)	久留米市	全国	認知件数	26.6	21.4	解消率	90.9	89.1	H28.12 末時点	久留米市	認知件数	25.9	解消率	81.7
(H27)	久留米市	全国															
認知件数	26.6	21.4															
解消率	90.9	89.1															
H28.12 末時点	久留米市																
認知件数	25.9																
解消率	81.7																
いじめの認知については、学校間で格差が見られるため、いじめの定義等について繰り返し周知し、引き続きその把握に努める。併せて、教師の生徒指導の取組の強化やスクール・カウンセラーによる教育相談を活用しながら、解消率の向上に努める。																	

施策		評価指標	策定時 (%)	
28年度の成果等			現在 (%)	
課題と今後の取組等				
3	学校生活充実への支援 (学校教育課) (教育センター)	学校に行くのが楽しいと答える児童生徒の割合(再掲)や、自分にはよいところがあると答える児童生徒の割合が全国平均を超える。 (全国学力・学習状況調査)	(H27)	よいところがある
			小6	72.0
			中3	60.5
	評価	△		
平成27年度よりも、中学校において自分にはよいところがあると肯定的に回答した生徒の割合が高くなった。			(H28) よいところがある	久留米市 全国
			小6	70.4 76.3
			中3	61.1 69.3
自分にはよいところがあると肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学校では27年度より減少し、全国平均を5.9%下回った。中学校では27年度より上昇したが、全国よりも8.2%低い結果となった。そこで、学校生活において児童生徒が自己有用感や自己肯定感が高まるような取組を通し、自尊感情が高まるように指導していく。				

施策		評価指標	策定時	
28年度の成果等			現在	
課題と今後の取組等				
4	学校安全への支援 (学校教育課)	日本スポーツ振興センター災害給付対象けが件数の減少(小学校)	(H26) 1,612件	
			(H27) 1,675件	
	評価	△	参考 (H26.11.30現在) 959件 (H27.11.30現在) 1,032件 (H28.11.30現在) 1,057件	
平成26年度と比較して、27年度は63件増加したほか、各年度11月末現在で比較すると、28年度も増加傾向にある。				
場合別では休憩時間に、場所別では校庭・運動場における件数が最も多く、教師の監督が行き届きにくい時に発生する傾向にある。 今後、セーフスクール推進事業を市内全小学校で実施するとともに、上津小学校がモデル校として取り組んできたセーフコミュニティの「学校の安全」の取組を市内全小学校に拡充することによって、教師・児童を含めた各学校の取組の充実に努める。				

重点3 久留米版コミュニティ・スクールの推進【学校・家庭・地域の協働】

	施策	評価指標	策定時 (%)
	28年度の成果等		現在 (%)
	課題と今後の取組等		
1	学習習慣定着への支援 (学校教育課)	家庭等での学習時間の向上 (1時間以上) (全国学力・学習状況調査)	(H27) 小6 55.7 中3 63.8 ※ 平日に家庭学習を1時間以上している児童生徒の割合
	評価	○	(H28) 小6 52.4 中3 64.2
	<p>中学3年生においては、家庭等での学習時間(1時間以上)の向上が見られた。</p> <p>小中ともに家庭等での学習時間は十分ではないので、計画的な宿題や地域学校協議会による学習習慣定着のための取組の提言を指導していく。</p>		

	施策	評価指標	策定時 (%)
	28年度の成果等		現在 (%)
	課題と今後の取組等		
2	地域学校協議会提言実働化への支援 (学校教育課)	地域学校協議会提言の達成率の向上	(H27) 達成率 71.7
	評価	○	<p>① 地域学校協議会の提言の実働化についての進捗状況を、平成28年7月の中間報告書で把握したところ、学校ごとの課題に基づく提言に応じ、「学力」や「生活習慣」などに関する取組が行われている。</p> <p>② 地域学校協議会会長等研修会において、久留米市の先進的な取組の実践事例3校(津福小・長門石小・屏水中)の紹介を行った。</p> <p>① 地域学校協議会の提言を受けた実働の内容は、学力保障・向上の取組47%、基本的な生活習慣の取組22%、スローメディアの取組18%、特色ある学校づくりの取組7%、食育の取組4%、不登校の取組2%であった。</p> <p>② 提言に基づいた実働が計画的になされているのかについての自己評価では、約70%の学校が肯定的な評価をしている。 (①②出典：中間報告書)</p>
	<p>学校が地域学校協議会の中で課題を明らかにし、その課題から「校区で目指す子ども像」についての熟議を重ねたうえで、提言が行われる仕組みを構築するよう研修会で促していく。</p>		

5 総括と今後に向けて

(1) わかる授業（学力の保障と向上）について

授業改善への支援と教師力向上への支援を行っていますが、十分な学力向上の成果には結び付いていません。

今後、各学校の学力向上コーディネーターを中心に、学力向上に向けた検証改善システムを構築するとともに、児童生徒だけでなく、教師の指導力向上に向けた仕組みとしても運用していきます。

(2) たのしい学校（安全・安心な学校づくり）について

不登校・いじめ対応の評価指標が目標を上回りました。子どもたちが安心して学び、楽しい学校生活を送ることが学力向上の前提として不可欠ですので、引き続き効果の持続に努めます。

また、評価指標が未達成である学校安全への支援については、セーフコミュニティの取組を市内の全小学校に拡大することにより、効果の向上を目指します。

(3) 久留米版コミュニティ・スクールの推進（学校・家庭・地域の協働）について

学習習慣定着への支援について、中学校の向上が見られました。今後、家庭・地域との協働を進めながら、補充学習の取組を強化することによって、家庭を含めた学習習慣の定着の基盤づくりを進めます。

(4) 大綱の基本目標について

第3期プランに関する部分以外の大綱の基本目標については、くるめ子どもサミットを始めとする久留米市の特色を活かした教育の推進、学校施設の整備、非行防止、学童保育の整備、生涯学習や市民スポーツの推進及び人権教育・啓発推進に関して、それぞれ進捗が見られました。

利用者ニーズの高まりが見られる学童保育所の整備について、施設の整備推進とともに、学校と連携した既存施設の活用を進めるなど、引き続き基本目標の達成に取り組めます。